



新生児のうち、出生時体重が1,500g未満数

<項目解説>

出生時の体重が1,500g未満の新生児を極低出生体重児、1,000g未満の新生児を超低出生体重児と言い、NICUでの全身管理や人工呼吸器、点滴や管からの栄養管理など、特別な治療が必要となります。

高度な設備にくわえて、技術力があるスタッフを24時間体制で配置する必要があるため、極めて重症度が高い周産期の患者さまを受け入れていることを表します。

<当院の実績>

【平成25年度】	19人	(うち、1,000g未満	10人)
【平成26年度】	13人	(うち、1,000g未満	5人)
【平成27年度】	17人	(うち、1,000g未満	11人)
【平成28年度】	18人	(うち、1,000g未満	6人)
【平成29年度】	18人	(うち、1,000g未満	3人)

<当院の自己点検評価>

当院は、道内唯一の二次・三次医療圏が同一である十勝圏域の地方・地域センター病院として医療計画における4疾病5事業について積極的な取り組みを病院目標に掲げ、その役割を担っております。

その中でも当院は、総合周産期母子医療センターとして、出生前・出生後の異常に対応する役割を一手に担い、専門性の高い小児医療を通じ、ハイリスク新生児の集中治療管理を行っています。NICU（新生児特定集中治療室）6床とGCU（新生児治療回復室）7床を完備し、限られた時間内で新生児に会いにこられる家族へ「スキンシップの大切な時間づくり」「心地よく過ごせる空間づくり」を念頭に医療を実践しております。

今後も引き続き、地域の小児医療に取り組み、安心して子育てができる環境づくりの一端を担っていきます。

<定義>

- ・自院における出生で入院を必要とした新生児
- ・死産は除く

<算式>

実数